

英国では今、いじめが学校という場を離れ、より複雑化してきている。「サイバーいじめ」と呼ばれる、テキストメッセージやEメール、ウェブサイト上で生徒への威嚇やおどし、先生の嘲笑などが増えており、複雑化するいじめを撲滅するための対策の必要性が、学校の先生の組合やメディアで問題化されている。

英国心理学協会(The British Psychological Society)は先月、1万5000人の中学生対象の調査結果を発表した。それによると、5人に1人以上が、学校の別の生徒から陰湿な、もしくは攻撃的ないやがらせの電話やEメールを受けたことがあると答えた。また、自分や友人のMySpaceあるいはBeboなどのソーシャルネットワーキングサイトで悪口や嫌がらせをされたり、さらに、学校で隠れて携帯電話で録画された辱めるようなビデオクリップを流されたりしたという報告があった。さらに、インターネットのディスカッションサイトから除外されたり、アカウントを偽造され嫌がらせメールを自分のアカウントから勝手に送られたりしたケースも報告された。

サイバーいじめの被害にあっているのは生徒のみならず、多くの先生が被害にあっている。携帯電話で隠し撮りした先生を辱めるような写真がオンライン上に投稿されたり、先生に関する中傷がサイトに書き込まれていたりしている。

このような状況を受け、英国の教育相は、ウェブサイトのプロバイダーは攻撃的な投稿を削除しブロックする「倫理的な義務」を担っていると発言した。先生から成る組合は、このような中傷的なウェブサイトを法的に訴える準備があると主張する。しかしながら、YouTubeは、アップロードされる画像の中でガイドラインに反するのは非常に僅かで、それらは発見次第削除していると言う。一方、生徒が先生や学校のスタッフをレーティングして投稿するサイトratemyteachersは、先生へのハラスメントに対して責任はなく、全ての投稿は内容をチェックしていると主張している。

英国政府は、このようないじめ撲滅のために以下の対策を講じる。

- 政府は今年後半に、サイバーいじめの認知率を高めるためのキャンペーンを実施する。デジタルエージェンシーProferoが担当。
- 今年4月1日に規制が導入され、先生に、生徒の両親の許可なしに、生徒の学校外での行動に権力を行使することができる法的権利を与えられた。先生は、学校の授業時間外での生徒の行動に関して、携帯電話やMP3を没収したり、叱責を与えることができる。
- 「Safer Schools Partnerships」という政府のイニシアチブのもと、数多くの学校で、警官がパトロールをし、生徒に話しかけたり、いじめや喧嘩、暴力を阻止したり、ドラッグやその他の犯罪行為の取り締まりを行う。現在、約500のパートナーシップが、学校と警察及び地元の政府系機関の間で結ばれている。

• 政治家から成る委員会が設置され、いじめの本質的な問題を把握するために、学校に対し、全てのいじめに関する実態や情報を記録するよう要請した。現時点では、人種差別に関するケースのみ記録されている。ある地区では、生徒が匿名のテキストメッセージでいじめを報告できるウェブベースのシステムを導入している。

